

錫^ヒ絹帛衣服^ヲ、以^テ充^ニ糜用^ニ、荆枝

再^ビ合^シ、望^ミ花萼相輝^ハ、堂棣未^ズ

ハナヒラカカニ、遽^ニ風霜之凋墜^{セラル}、春秋廿有

五、以^テ大唐開元十一年歲次

癸亥六月十一日^ヲ薨^ズ於右賢

王京師懷德坊之第^ニ、以^テ其年

十月癸巳朔十日壬寅^ヲ葬^ル於^ニ

長安縣龍首原^ニ禮也、天漢月

銷^{エテ}、無^ク復^タ樅樓之影[、]星河婆散^{シテ}、

空餘^ニ錦帳之魂[、]男懷恩[、]兄右

賢王、手足斯斷^ニ、鴈行之痛于^ニ

深^ク、膝下長違^ク、烏哺之情永絕^ユ、

雖^モ送終之禮、已啓^ニ松塋[、]而推

改之俗、慮^レ爲^ニ蕪沒[、]撫^ニ貞石[、]以

作^レ固[、]鑿^ニ斯文[、]以爲^レ憑[、]庶海變

可^ク知^ル、田移物^レ或[、]其詞曰[、]

倏^チ辭^{シテ}畫閣[、]永臥^ニ荒憤[、]人生至

此^ニ、天道寧論[、]日催^ニ薤露[、]風急^ニ

門^ニ、千秋萬古、寂寞孤魂[、]

○唐故三十姓可汗貴女賢力毗伽公主雲中郡夫人阿那氏。

三十姓可汗なる名は此の墓誌の解釋に於て、先づ遭遇すべき難語なるべし、新舊唐書、冊府元龜等を始め、漢書にして唐代の北方民族を記せるものについては、余は未だ此の名を求むるを得ず、勿論以下記する處に於て認むるが如く、之が東突厥の可汗を指したるものなることは明白なれども、史書にはかゝる名を傳へざるが如し、凡そ此の當時北方諸民族を呼ぶに其の部族の數を以てするは、殆んど常例にして、此の文にも見ゆるが如く廻鶻^{ウイゲール}を九姓と